

きずついたら
元に戻らない脳を
大切にするために
どうそなえるか
考えよう



子どもの

脳

を

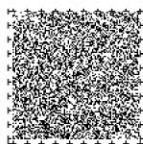
守

ろ

う

!

交通事故やスポーツ中に頭を強くぶついたり、
頭が強くゆさぶられると、脳がきずついてしまう
ことがあります。脳はとてもやわらかく、一度
きずつくと元には戻りません。脳がきずつくと、
生活の中でいろいろな困りごとが起こります。
大切なことは、脳をきずつけない
ようにみんなで事故やケガを
防ぐことです。みんなで考え、
脳を守るそなえをしましょう。



脳がきずつくのは

どんな時？

交通事故



- 歩いている時に車やバイク、自転車とぶつかる
たとえば…
赤信号の道路横断中の事故

- 車や自転車に乗っていて事故にあう
たとえば…自転車運転中の
ながらスマホによる事故



転倒・転落

- 高いところから落ちる
- ブランコなど遊具から落ちる
- ころんで頭をぶつける



スポーツ

- ボールがふいに頭に当たる
- 地面や人に頭がぶつかる



暴力



乳幼児の揺さぶり

脳がきずついたら

どうなる？

感覚障害

- 味がしない
- においがしない
- 目がよく見えない
- 耳がよく聞こえない



高次脳機能障害

- 勉強に集中できない
- 約束や宿題をよく忘れる
- 友達とうまくつき合えない
- ちょっとしたことでもイライラしたり、怒る
- 言葉がうまくしゃべれない



身体障害

- 手足に力が入りにくい
- 手足がしびれる



自律神経症状

- 吐き気がする
- 頭痛がする
- めまいがする



1

脳がきずつくのは

どんな時？

交通事故

- 歩いている時に車やバイク、自転車とぶつかる
たとえば…
赤信号の道路横断中の事故



- 車や自転車に乗っていて事故にあう
たとえば…自転車運転中
ながらスマホによる事故



転倒・転落

- 高いところから落ちる
- ブランコなど遊具から落ちる
- ころんで頭をぶつける



スポーツ

- ボールがふいに頭に当たる
- 地面や人に頭がぶつかる



暴力

乳幼児の揺さぶり



3

頭を強くぶつけたときは

どうすればいい？



頭を強くぶつけた時、ケガがなくても頭痛や吐き気、ぼーっとするなど普段とちがう様子になることがあります。その時にはすぐに病院に行ってお医者さんの診察をうけてください。人によっては、数日後～数週間後に症状が現れたり、MTBI（軽度外傷性脳損傷）*と呼ばれる、画像検査（MRIなど）でもきずがわからない場合があるので、注意が必要です。

※脳に傷がつくことがあった中でも30分以内の意識消失、24時間未満の健忘症などの「軽度」の意識障害が生じる場合はMTBI（軽度外傷性脳損傷）と呼ばれます。画像検査（MRIなど）でも異常が写らないことが多く、診断が難しいため専門医療機関による総合的な診断が必要です。

4

脳を守るためには

どうそなえるの？

交通ルールやスポーツのルールは、みんなの安全のためにあります。一人一人がルールを守ることは一人一人の大切な脳を守ることも大きくなります。

自転車に乗るときは
ヘルメットを着用しましょう。



ルールを守り、体に合った
クツや道具を正しく使いましょう。



車に乗るときにはチャイルドシート、
シートベルトを使用しましょう。



大人が子どもに正しい
交通ルールを教えましょう。



頭を強く揺さぶらないように
しましょう。



みんなで

考えよう

一人一人で守ろう

脳を大切にするために、自分に何ができるか考えてみましょう。どんなルールがあるか、どうすればいいか、脳を守ることに注目して考えてみましょう。



コミュニティで守ろう



親、先生、地域の人など大人は、子どもの脳を守る上でかかせない人たちです。大人として何ができるのかを、みんなで考えていきましょう。

問い合わせ先

保健センター 専門相談課
高次脳機能障害相談支援担当

電話 03-6265-7548

ケアセンター ふらっと

電話 03-5712-5105

発行

世田谷区役所 障害福祉部 障害保健福祉課